広報
ふじかわ

11月号 〔中央公民館特集号〕 No.292

昭和60年11月5日発行

富士川町 総務課

町のメモ

昭和60年11月1日現在	
人口	16,955人
増減	－4人
男	8,352人
女	8,603人
世帯数	4,390世帯
面積	31.09km²

町のことしの目標
「笑顔であいさつ明るい町に」

おもな内容

2～5ページ 〝集まる・学ぶ・ふれあう場〟 中央公民館
6～7 広報ディスカッション
8～9 ママさん記者が取材中！「商工会」
10 戸籍の窓、一里塚、文協俳句会

富士川町民憲章

1．わたくしたちは、富士川町民としての自覚をもって郷土のためにつくしましょう。
1．わたくしたちは、心身をきたえ、仕事にはげんで豊かな町にいたしましょう。
1．わたくしたちは、教養を高め、情操を深めて明るい家庭をきずきましょう。
1．わたくしたちは、奉仕につとめ、力をあわせて住みよい社会をつくりましょう。
1．わたくしたちは、創造と努力によって町の未来をひらきましょう。

"集まる・学ぶ・ふれあう"場 中央公民館

みなさんの"集まる・学ぶ・ふれあう場"として、昨年の10月から建設を進めてきました中央公民館が、11月3日オープンしました。

今月号では、中央公民館のあらましについてご紹介します。

公民館の概要

総事業費約八億三千百万円、工期約一年で建設された中央公民館は、耐震設備の整った鉄骨コンクリート造り三階建て、延べ床面積約三千百平方メートルです。

外壁は、地域の環境にマッチし、明るく機能的なイメージと落ち着きを持たせるためにオレンジ色のタイルやベージュの吹付タイルを使用しています。

一・二階のロビーは、くつろいだ気分で使用できるようガラス壁や吹き抜けで採光に配慮してあります。

全館の冷暖房は、省エネルギー化を考え、ヒートポンプ方式が取り入れられ、利用者が簡単に各室で温度調整ができるようになっています。

また、お年寄りや車椅子の人にも気軽に利用できるように十一人乗りのエレベーター、専用トイレなどを設けてあります。

そして、利用車の便宜を考えて、約二十台の駐輪場、約百台の駐車場を設けてあります。

一階

☆ホール・舞台

身障者席を含めた四百八十席のホールでは、式典・音楽会・講演会・演劇・映画会などいろいろの催しものができます。

☆研修室（一室約三十五平方メートル）

二十人程度の会議のできる室が五つ設けられています。

☆団体活動室（約四十平方メートル）

印刷室や湯沸室付きで、町内の各種団体の活動の拠点となります。

☆多目的室（約二百八十平方メートル）

軽スポーツ・展示場、また、百四十三席の移動席をセットすると発表会場や小規模な式典会場として利用できます。

☆図書室（約二百平方メートル）

貸出業務にコンピューターを取り入れ、旧図書館機能を更に充実し、総合的な情報をみなさんに提供します。蔵書数約一万冊

☆お話室

小さな子どもとお母さんがくつろいだ雰囲気で読書などができる室です。

☆事務室

館の貸出しや各種学級・講座を開設する五人の職員の執務室です。

☆その他

ホールどん張には町の代表的な民俗行事"富士川の投げ松明"が、また、玄関壁画には全国的に有名な"木島式土器"や谷津原古墳出土の"環頭大刀"が取り入れられています。

また、玄関脇きの談話コーナーは、富士山、富士川の景観が特に配慮されています。

二階

☆講義室（約百二十五平方メートル）

ビデオ、スライド、十六ミリ映写機など視聴覚機材を設置し八十人程度の講演会・ビデオ映画会・説明会ができます。

☆大広間（二十七畳）

舞台付きで、趣味・教養などの集会場として使用できます。

☆茶室（四畳半）

本格的な茶会などの催しができ、坪庭が付いています。

☆視聴覚調整室

館内各所に設置されてテレビの相互送信システムを調整する室で、自主番組制作（ビデオ編集・ビデオダビング）、多目的室の音響・調光を調整する室です。

☆母子室

小さな子ども連れのお母さんが、ホールでの演劇や映画会などの催し物を、一緒に観賞できる室です。

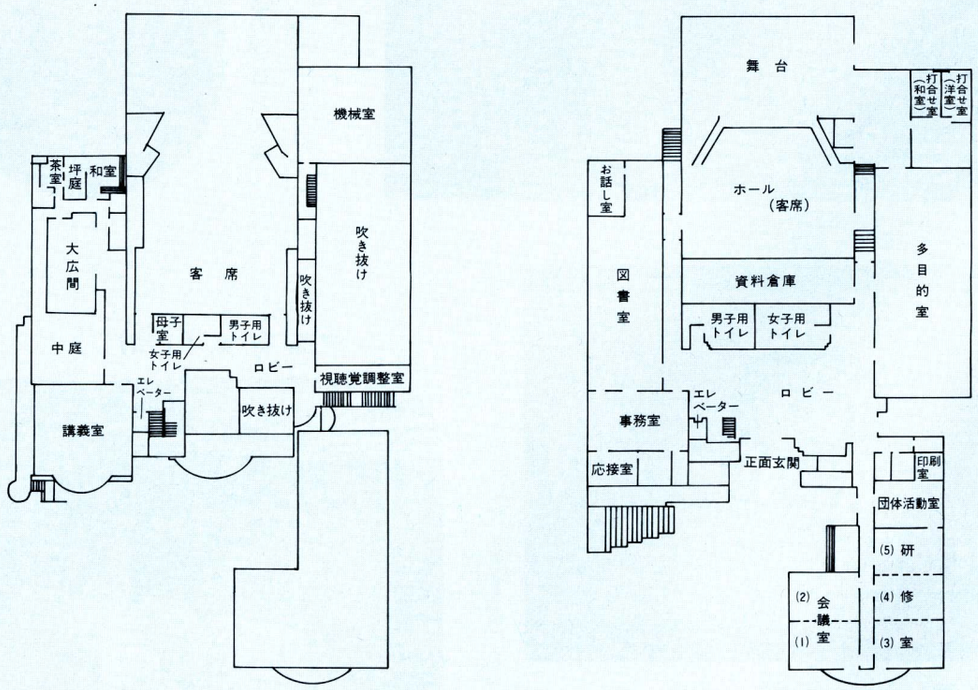
☆その他

フロアーには、目の前に広がる景観をみながらゆっくりくつろげるコーナーがあり、そこには玄関ブロンズ像と同じ作者の女性像があります。

開館記念行事等

月・日	行事内容	時間	備考
11月3日	中央公民館落成記念式典	8時 テープカット	招待者
11月3日～5日	町民文化祭	9時～21時	
11月9日	桐五重奏団演奏会	18時 開場	有料
11月14日	庵原郡小・中学校音楽発表会	12時40分	
11月16日	町敬老会	9時・13時	
11月28日	講演会（仮題） 「子供の芽をのばす家庭教育」 講師 清原美弥子先生（予定）	14時（予定）	無料
11月29日	斎藤定子とミュージカルアカデミー 「ファミリーコンサート」	18時 開場	有料
61年1月26日	劇団あとむ 「風を見た少年」公演（予定）	（未定）	有料

中央公民館平面図



町づくりの新しい拠点に

富士川町長
常葉雅文

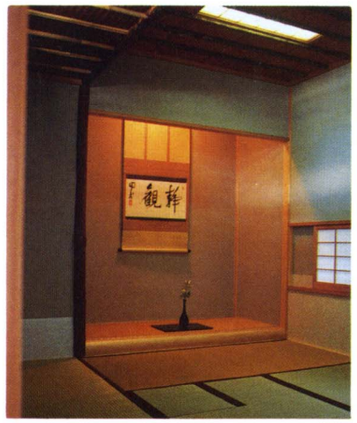
来るべき二十一世紀を展望し多種多様なニーズに対応すべき施設「集る」「学ぶ」「ふれあう」場所として、町民のみなさんが豊かな体験ができ、相互のふれあいができる――いわゆる総合センターの機能を有する「中央公民館」建設は、昭和六十年を目途とした富士川町第一次総合計画における基幹事業ともいうべきものであります。この事業推進にあたっては、計画的に基金の積立を行うとともに、広く町民の意向を集約して反映させるため町民各層の代表者からなる「総合集会施設建設調査委員会」から施設の内容・規模等についての基本構想の提示がなされました。庁内においては「建設対策会議」・議会では「中央公民館建設特別委員会」が設置され、施設建設へ向けて慎重に検討・協議を重ね関係各位のご理解とご助言をいただき昭和五十九年から六十年度の二ヶ年継続事業として着工・立派に竣工し、このたび開館の運びとなりましたことは誠に喜びに堪えません。

麗峰富士を仰ぎ、駿河湾にそそぐ富士川、松並木の緑と周辺の眺望と景観との調和をはかりながら音楽・演劇等の公演が可能な舞台・ホールをはじめ多目的室・図書室・研究室・会議室・団体活動室・講義室・和室・茶室・ロビー等の各部屋が配置されております。また、どん帳や正面壁画には町の伝統的民俗行事等を取り入れ色鮮やかに表現をしております。

この中央公民館は、当町の文化活動の殿堂として、また、老若男女のみなさんの社会教育活動の場として、さらにコミニティ推進の場として十分活用をいただき、町民文化を更に発展させるとともに、町づくりの新しい拠点となることを念願してやみません。

写真でみる 中央公民館

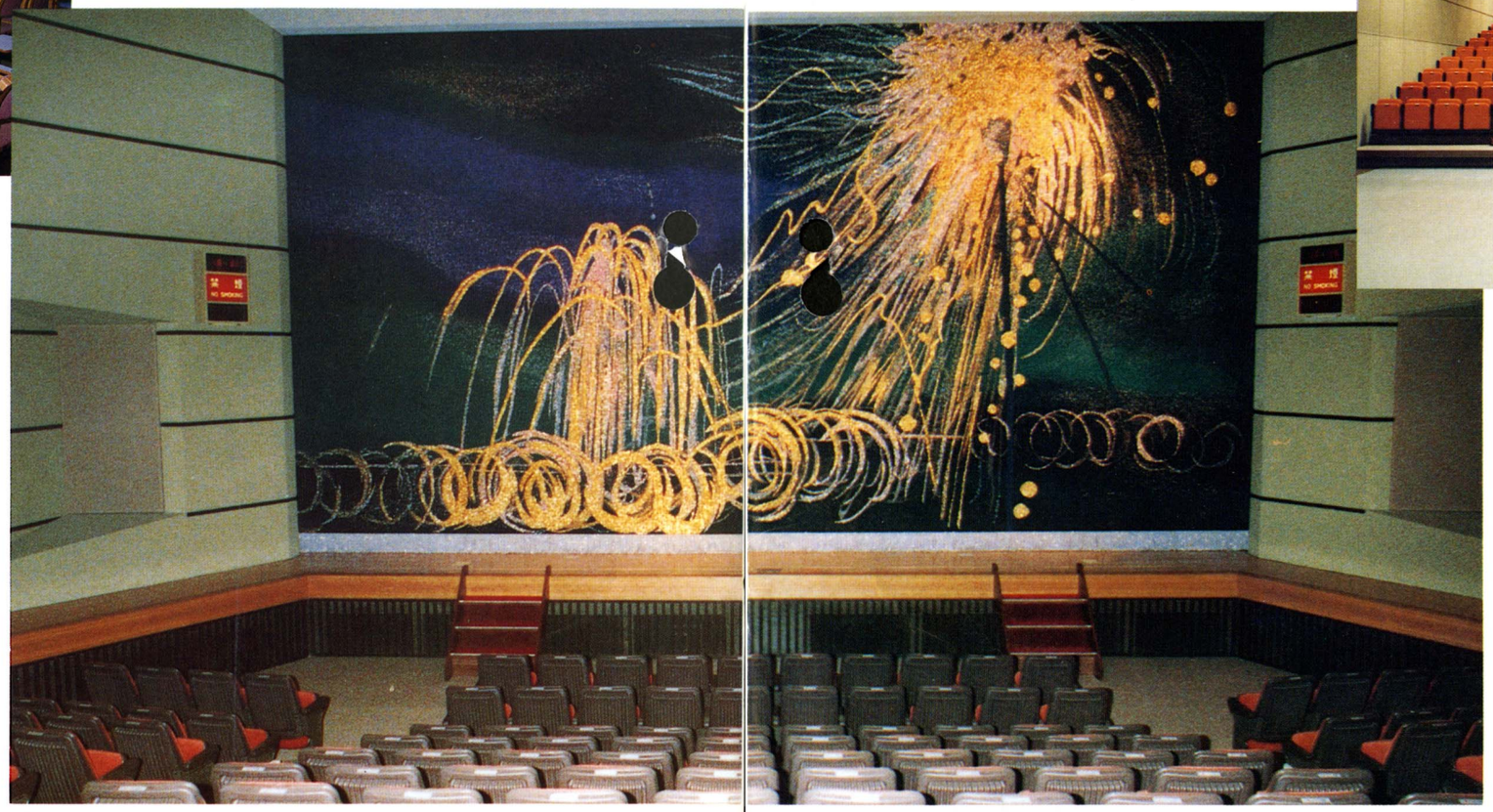
▲講義室（2階）



▲茶　室（2階）

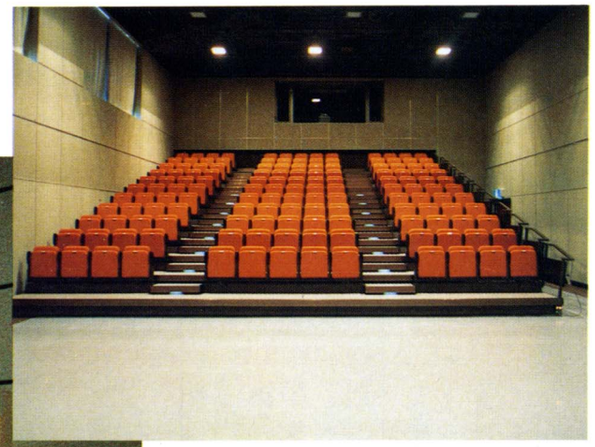
▼会議室（1階）

中央公民館は、年金積立金還元融資金を財源とし、また、同館のビデオシステムは宝くじ受託事業の助成を受けています。



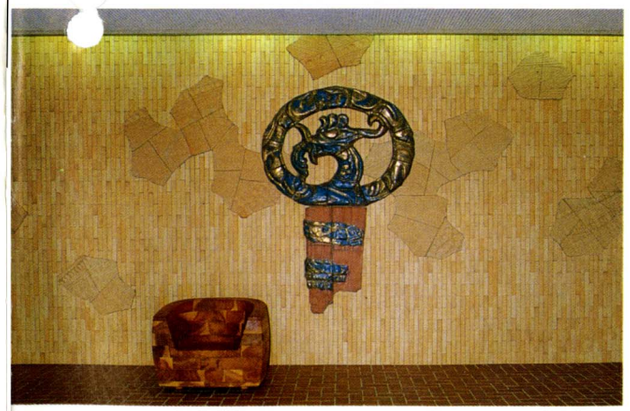
▲ホールどん張「富士川の投げ松明」

▲1階ロビー



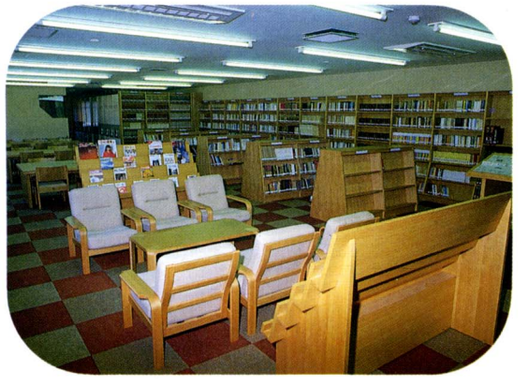
▲多目的室（1階）

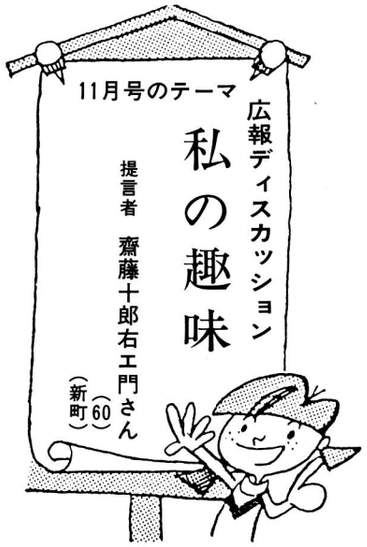
▶正面玄関横のブロンズ像〝愛〟



▲玄関壁画
（木島式土器・柏戸いす・谷津原古墳出土環頭大刀）

▼図書室（1階）





豊かな心を

伊下町　風岡歌子さん(56)

「あなたのご趣味は」「趣味ですか、さあ…」としか答えられなかった自分を思う時、少し淋しい気がしないでもありませんでした。

趣味とは何かを事典で調べてみると、・感興をさそう状態。おもむき。・美的な感覚のもち方。このみ。・専門家としてではなく楽しみとする事柄。・実用や利益など考えず好きでしているものごとなどと書かれています。これからすると趣味のない人はいないといえます。要は好きなことを精いっぱいやり豊かな心になり円満な家庭生活を築いていくことではないかと思います。

〝四十の手習〟と申しますが私も五十中ばになって「お茶」のおけいこを始めました。めまぐるしい日々の暮しの中で静かな一瞬の持てることに心ひかれ新入生となった訳です。おけいこの日には、朝から張り切り夕食の準備も早目に終わらせ孫たちに励まされいそいそと出掛けます。挨拶に始まり立居振舞全身を使っての動作は心がやわらぐだけでなく健康にも大いに役立つことがわかりました。

四百年の伝統をもつ茶の湯は日本人の生活文化に深く息づき奥深いものがあります。その一端にふれる喜びと、今こうして生活できることに感謝する心を忘れずに一日一日を大切にして頑張っていきたいと思います。

写真道楽六十五年

小山　木村浩策さん(79)

趣味というか道楽というか、私が写真を撮り初めたのは大正9年頃で、ベストカメラを兄に買ってもらったのが最初で、戦前はアサヒカメラの巻頭に出たり色々の懸賞写真に出して、二・三の賞をもらったこともあった。その当時、霧のかかった谷川岳など、今でも傑作だったと自負している。戦災で一切を焼いて当時のコダックカメラ一台だけ残り、今でも本箱の中で昔の夢を偲ばせている。戦後はキャノンの一眼レフと望遠レンズを持ち、重いのを我慢して写して歩いていた。弘前城の桜、紅葉の妙義山など、しかし、近頃は眼の故でピントが合わせにくくなり、全自動の所謂「バカチョン」に変えて楽しんでいる。この春撮ったサービスエリアの桜と富士山はまずまずのできと思っている。先日、まきの木大学の京都旅行では「堅田の浮見堂」や御所の「紫宸殿」が割合よく撮れた方だ。下手の横好きの六十五年。これからいつまで撮りつづけられるか、古いアルバムを眺めて独り楽しんでいる。

読書が好き

新町　一小四年　佐野友美さん

私は本が好きです。本は私を本の世界に入れてくれます。テレビをきっかけに少公女セーラの本をよみました。おばさんにセーラの本をもらい、もっと知りたくて学校の本を二さつ借りて、もっと知りたくてお母さんに買ってもらいました。色々な人が訳した本を読んだけれど、一番おもしろかったのは学校の本でした。そして、小さいころ一さつセーラの絵本を読みました。全部でセーラの本を五さつ読んだことになりました。最近は、窓ぎわのトットちゃんを主に読んでいます。これは黒柳徹子さんの小さかったころのことが書いてあります。よく、テレビで徹子さんを見ますが、いたずらっ子だったとはとても信じられません。

私は本を読むのが好きで空想ができるようになり、二年生の頃からお話を作るようになりました。今学校では絵本クラブに入り五さつぐらい作りました。私は物語りや童話を読んでばかりいます。だからもっと科学や歴史のような本も読みたいです。そして、たくさんの本を書きたいと思います。

12月号のテーマ　1年を振り返って

望月千萬人さん(46)(新町本町)

〝しらじらと氷かがやき千鳥なく釧路の海の冬の月かな〟この歌は、釧路一円を眺望できる米町（旧色街で啄木所縁の地）公園に建つ啄木碑である。この地より今年2月10日に単身赴任で着富、二十三年ぶりの故郷である。

久しぶりに見る故郷山河や市街は大きく変貌すれど遠くから眺める秀峰富士は変らず、朝夕の〝富士〟は雄大清麗、心がひきしまる思いです。再びこの地で生活できる幸福を感じます。当地にきて幼な友だちや悪餓鬼連中に再会、親交を新たにしたが、二十三年の歳月を友の姿に観る、何故かふと〝浦島太郎〟を思い出させた。

家族は4月初旬に引き上げてきたが…家族全員が揃ってというわけにはゆかず、一人残してきた子どものことが気がかり。高年齢層の転勤者にとって、子どもの教育（特に転校）や就職（転職）問題等が障碍になっていることはやむを得ないことなのか。

生まれ故郷で二十三年、第二の故郷ともゆうべき釧路で二十三年。生涯の生活を再度、友人や兄妹縁者の住むこの地で過ごせることに感謝。二十三年間の釧路の生活は充実した期間で納得した人生といえる。これからは、この地の人とのかかわり合いを大切にする中で、将来生活の基礎固めとして一歩一歩着実に足跡をつけてゆきたいと思っている。生き甲斐はそこから生まれでるから……。

投稿者へ

◎12月号のテーマ
「一年を振り返って」
◎字数
四百字づめ原稿用紙一枚以内
◎締切日
11月22日(金)まで
◎投稿先・問合先
富士川町役場総務課
岩渕121番地
◎注意事項
匿名者の原稿は掲載しませんから、必ず住所・氏名・年齢を記して、締切日までに投稿してください。

草花に憩う

堺町　渡辺久子さん(35)

ある本に「趣味は生きていくための新鮮な空気、長い人生を支えてくれる杖のようなものだ」と記されておりました。平凡な一主婦の私にとって、あえて趣味らしきものといえば、家庭に活ける四季の草花に気をとどめることでしょうか。

私がこのことに興味をもつようになったのは、あるお宅に伺った際玄関に、そのお宅で作られたものでしょう、見慣れた季節の花が実に楚々と活けられていたのです。庭先の花や野の花でも活け方によっては、こんなにも見事かと感激した私は、なんとかその技術を学んでみようと思ったのです。

ところが実際草花にふれてみますと、一枚の葉や一枚が扱いしだいでどのようにでも変化、表現されるのです。迷えば迷うほどお花に振りまわされるありさまで、新鮮な空気とはほど遠い限りですが、思いますに親の扱い方しだいで、輝きもし、駄目にもなってしまう子どもの教育にも似ているところがあるようです。

家庭に花があることは、家族に安らぎを与えますし、子どもたちも以前に比らべて草花に興味を持つようになりました。家事に追われる日々の中で、わずかながらの緊張と、喜びを与えてくれるこの趣味を、細く長く続けたいと思う今日この頃です。

ギターと私

南町二　田島　操さん(39)

ギターが好きである。年輪を経た造形も良いが何よりも音色が好きだ。とげとげしさがなくまろやか、怪しいほど艶があり、それでいて哀愁を感じさせる。ごてごてしない透き通った深みのある茶系色。高い空から聞こえる神の声のようでもあり、懐しく昔を思い出させてくれる音色である。

学生時代は、手伝いもせず弾いていて、どんなに親父に怒鳴られたことか。勿論、借用のギターでも少し狂っていたが、それで十分満足していた。自己流だから仲々上達しないが楽しかった。若さにまかせ、がむしゃらに指で憶えた。一寸できると嬉しくて堪らず、何度も弾き返し、僅かながらバロックの時代に帰ったような気がしたこともあった。短い夜であった。しかし、〝時は人と遊ばず〟ならぬ〝ギターは人と遊ばず〟である。このところギターに触れていない。あの時の情熱は何処へ行ったのか。右手の指の動きも鈍り、左手の指先もすっかり柔かくなって、たまに弾けば弦の硬ささえ感じる。これからは、耳だけでギターに再挑戦である。まあ、いきりまいたところで、ゴマメの歯ぎしりで終わるだろう。それでも良いのだ、僅かでも自分の世界が広がれば。それ以上趣味に求めるものはない。

音楽鑑賞

相生町　植松智子さん(32)

広く浅くという私の信条から人形造り、編み物などといろいろ楽しんできたが、趣味というと音楽鑑賞です。

高校時代に聞いたマンドリン演奏の感激が忘れられず、短大に入って迷わずマンドリンクラブに入った。マンドリンの軽やかな音色に魅せられて二年間マンドリンに熱中し、序曲「エグモント」、序楽「今と昔」などの名曲から当時の流行歌まで弾くことができるようになり、マンドリンを通してすばらしい音楽を聞くことができ、そのまま私の趣味になっていった。

家庭に入ってからは、マンドリンは部屋のアクセサリーとなってしまったが、暇を見つけては、あるいは掃除をしながらレコード鑑賞をして楽しく仕事をするよう心掛けています。

小学校三年生の娘も音楽に興味をもち楽しんでいます。

大学時代にやはりドラムを楽しんでいたという音楽好きな主人も交えて、はやくホームコンサートでもしたりして楽しみたいと娘や息子の成長を楽しみにしています。

ママさん記者が取材中

「富士川町商工会」

稲刈りを待つばかりの田では稲穂に霧雨がかかり、秋もいよいよ本格的な10月17日、私たち広報モニターは「富士川町商工会」を訪問し、会長の斎藤久男さん（東町一）、経営指導員の宇佐美勝敏さん（南町一）に商工会の活動などについてお話をうかがいました。

町商工会の歴史は古く、明治時代にさかのぼるようで、戦後は産業組合として、昭和28年には法人懇話会が中心となり任意商工会として歩み、昭和35年の法制化に伴い「町商工会」として新らたにスタートし今日に至っています。現在の会員は三百八十三人で、町内の事業所や商店主のみなさんです。

商工会は、会員の経理、税務金融、労務などを中心とした健全な経営指導や助言をする中で地域社会の総合的な改善や発達を図ること、福祉の増進や経済の健全な発展を図ることなどを目的として活躍されています。また、毎月の事業所の帳簿から決算までを電算化するなど、近代化に積極的に取り組んでいます。

この会の中には、会の目的達成や会員の親睦を深めることなどから婦人・青年・商業・工業税務・労務部会、金融・振興委員会が設けられ、毎年夏恒例の夜店市、講演会、年末の大売り出しなど盛り沢山の行事を行っています。

会長さんは「今後、夜店市を他の団体などとタイアップして、町の産業の一大イベントとして開催したい、また、庵原郡の他町に先がけて町内各店共通の商品券を発行する予定ですので、ぜひ活用していただきたい」と力強く話していました。

会の運営費は、会員の会費や国・県・町からの補助金でまかなわれていますが、県内六十七市町村の商工会で構成する静岡県商工会連合会長を務める会長さんをはじめ、役・職員のみなさんは、地元の人たちが安心して働くことのできる工場や生活しやすい街づくりのために会員と一丸になり活躍されていることが大変よくわかりました。

最後に、会の発展は町の発展にもつながり、消費者である私たちは、地元の商店や産業を見直し、更に利用するよう心がけていきたいと思いました。

（広報モニター宇佐美英子）

会長の斎藤さん（中央），経営指導員の宇佐美さん（右側）にインタビューするモニター（左から二人目）．

▼社会教育あれこれ▲ バイキンくん

子どものオモチャ箱を整理していたら、おもしろいオモチャが出てきた。よくみるとこわれてしまっている。たしか〝バイキンくん〟という名前だった。

奇妙な形をした人形の下にバネがついていて、その人形の頭をぐっと押えつけるとバネが縮んで、しばらく小さくなってしまうのであるが、数秒後、急に音を立ててバネが反撥して人形は飛びあがり、周囲の人を驚かせるのである。

何時飛び上がるか、何時飛び上がるか、ほんの数秒を待つ心理とわかっていても飛び上がる瞬間のスリルにも似た思いと、その様子がおもしろくて家族で楽しんだオモチャであった。

このこわれたオモチャを手にしながら、私は数日前のある新聞の社会面の記事を思い出したのである。

それは、今きわめて深刻な社会問題化している学校の〝いじめ〟に同名のものがあるということである。

〝いじめ〟がほんとうに深刻である。加害者にはほとんど罪悪感はないといわれ、むしろ遊びのような心理状態に近いと指摘されている。逆に、被害者の六割は登校拒否という悲しい状況に追い込まれているのである。

いじめのあらわれやその原因は千差万別で、様々な要因が複雑に影響し合っており、その対応はきわめてむずかしく、しかも急がなくてはならない。

もし、万が一にもかつての恐ろしく、悲しい村八分にも似たような威し、いやがらせ、中傷、噂等々が現在もあるとしたら、この社会全体そのものがいじめの体質を持っているのではないだろうか。いじめは単に学校の問にとどまらず、社会問題化しているのである。

オモチャのバイキンくんのあの周囲の人を驚ろかすような、いじめ問題の反撥を心配しつつ、このオモチャを楽しんだ自分におそろしさを感じながら、急いで紙袋に拾てたのである。

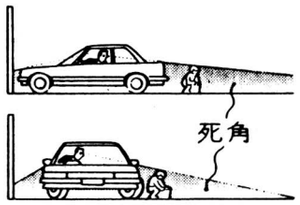
家族で話し合おう図解交通安全

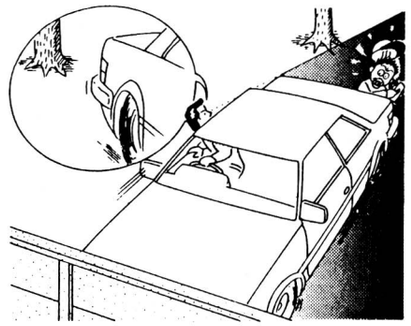
車の周りにひそむ危険

子どもは物陰で遊んだりするのが好きです。駐車している車の後ろや、車と壁などの間の狭い空間は、格好の遊び場所になるようです。ところが、車の周りには危険がひそんでいます。

運転席からは、車の周囲すべてに目が届きません。特に、車のすぐ前や後ろで子どもがしゃがんで遊んでいたりすると、見えません。車の周りには、ドライバーから見えない〝死角〟があるのです。このため、駐車している車を発進させるとき、遊んでいる子どもに気づかないで事故をおこすことがあります。ドライバーのみなさんは、車の前後左右をよく確認してから発進するよう心がけてください。

また、保護者の方は、子どもを車の近くで遊ばせないよう、十分注意してください。





10月の交通事故

人身事故―5件（9）
物損事故―8件（5）　合計13件（14）

富士川身延線	5件（3）
国道一号線	4件（8）
町道	0件（2）
県道	3件（1）
その他	1件（0）

（ ）は昨年

まちの昔ばなし　伝説(三)

富士川の川天狗

その一

昔はネ、富士川はよく洪水になりました。水が引くと川原には沢山の河原木（流木）が流れついててネ、これを拾いに村中総出だったよ。

私しんちも、父親が拾いに行くんで、一緒に行ったんだよ。父親は足早やに川原の方に行ってしまったんで、新道（今の県道）から川原の草場を分けておりて行ったらガヤガヤ人の声のような、わけのわからない声がしたんだよ。誰れかいるのかな、と思い振り返ってみたんだけんど、誰もいません。

その時はあまり気にもかけずに河原木を拾って背負い、川原から道の方に登っていくと、また、さっきのガヤガヤという声がします。歩くのをやめれば声もとまります。そしてまた歩けば声がする。すごく恐くなって、新道から家まで飛ぶように走ったよ。家の人にこの話をしたらネ「それは、川天狗の仕業だ」といってたよ。

その二

昔、富士川の対岸の明星山に天狗さんが住んでいました。この天狗さんはいろいろの悪さをするので、川岸の人々はこわがっておりました。

ある晩、人々が寝静まった頃馬坂の下にあった船着き場に舞い降りた天狗さんは、屋根裏に登ってユサユサと家をゆさぶって「おっかないか、おっかないぞ」といいました。家に寝ていたのはお婆さんでしたが、度胸のある人でしたので、これは天狗の悪戯だなと思いました。それで、天狗に向って「お前さんがなんぼおどかしてもチットも恐くないよ。私は米のないのとお金がないのが一番おっかない」といいましたら、天狗もゆするのをやめてしまいました。

戸籍の窓

S60・9・15～10・14届出分
（敬称略）

おめでた

区名	氏名	保護者続柄	
相生町	望月健太	利治	長男
〃	植松真央	矢一	二女
〃	石神久也	正美	長男
上町	望月健太郎	章司	長男
上町	若林侑加	義久	長女
舟山町	齋藤祐樹	督雄	長男
四十九町	麻布真澄	昌昭	長女
小池	山梨純平	壽久	長男
大楽窪	森本惠子	啓介	長女

かなしみ

区名	氏名	年齢
小山	齋藤良三	八三
上町	常葉きく	八六
旭町	宇佐美くに	八一
〃	池谷喜久三	六八
新町本町	佐藤かよ子	四九
四十九町	石川清太郎	九二
宮町	高橋友一	五五
〃	荻野まき	八四
幸町	浦田たき	八三
八幡町	依田啓四郎	六九
〃	川口六郎	八三
富士松野	太田彌作	七九
侭下町	錦織みよ	八四

塚一里

町民が、ひとしく待ち望んでいた中央公民館が完成・オープンした。

私もこの公民館建設へ向けて計画立案、そして、着工へ従事してきたので完成には感慨ひとしおのものがある。

この公民館は、「集る」「学ぶ」「ふれあう」場としての基本理念にもとづいて町民の英知を出しあいながら関係者の理解と助言により完成できたことは誠に喜ばしい。

音楽・演劇等の公演ができる舞台・ホール、軽スポーツ・展示・発表会に使用できる多目的室、最先端技術を導入しての館内CATV、心をなごませてくれる本格的な茶室、また、ロビー正面の壁画・どん帳の郷土色豊かなデザイン、館内からの松並木の緑、富士川・富士山の眺望等目をみはる。

日常生活の中で、ともすれば個中心になりがちな昨今であるが、積極的に団体・グループ等で各々がふれあい、学びながら個を高めていきたいとおもう。

管理運営に携さわる方々は、施設の偉容に圧倒されることなく対応してくれることを望む。

（丸山）

町への寄付金（敬称略）

（S60・9・12～10・25）

中央公民館建設事業・備品購入費へ

十万円　蒲原ライオンズクラブ
五百万円　野田　力三（東京都）
五十万円　芦川　利一（木島）
十万円　浦田　博恵（堺町）
五百万円　斎藤　頴夫（東京都）
二十万円　白石工業株式会社
〃　富士川製紙株式会社
〃　本州製紙株式会社
〃　イハラケミカル株式会社
〃　ほてい缶詰株式会社

社会福祉事業費へ（堀江文庫）

百万円　堀江　喜一（富士宮市）

お母さんの〝知恵袋〟

電気毛布・電気ごたつの使用方法をもう一度お確めください。

1 電気毛布

○折りたたんだり、敷毛布でないのに敷いたりしないように。

○あんかのような、ほかの暖房器と一緒に使うのはさける。

○毛布の上に重いものを乗せると発熱体が故障することがある。

○乳幼児や身体が不自由な人には温度調整を正しくしてあげる。

○水洗いやアイロンはやめる。ヒーター線は水にも熱にも弱い。

2 電気ごたつ

次のような使い方をすると、安全装置が正しく働かなくなることがあります。

㋐足を片方だけはずして使う。

㋑やぐらを逆さにして手あぶりに使う。

㋒横に倒して電気を通す。

㋓ほかの熱器をやぐらの中に入れる。

㋔せんたく物を乾かす。

㋕やぐらの中へ布団を押し込む。

㋖布団を開けたまま電気を通す。

○温度ヒューズの代わりに針金を使うのは危険です。

（富士川町婦人会）

俳句会

〈文協俳句会〉

宮町　増井　冬木
菊人形本日休診の札かけて
菊合はせ村医博士号もう無用
大北町　天野　たま
山彦を返さずに山眠りけり
南町二　法月　幸子
夕勤の月の山寺僧一人
南町一　影島　智子
稲架丸太かつぎて忘る五十肩
南町一　田辺つぎ子
火の山の夕闇に浮く野菊かな
清水町　宇佐美裕子
どんぐり受く生命線の長き掌に
南町一　望月　洋子
草の実のはじけ地の神よろこばす
旭町　笠井みち子
駒下駄の足音軽し鰯雲
南町一　上野みつ子
露溜めて光をこぼす猫じゃらし
南町一　上野　君江
雲あしの早きにのれり居待月
南町一　宇佐美幸子
家建ちて十年蛇も棲ひけり